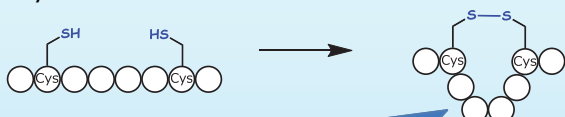


# ペプチド合成 —環状化ラインナップの紹介—

多くの生理活性化合物は、標的となるタンパク質に相互作用することで活性を示す。このとき、化合物のコンフォメーションを制限することで相互作用が強くなり、活性の増大に繋がる。TRCでは、生理活性ペプチドのコンフォメーションを制限する方法として、様々な環状化が可能である。

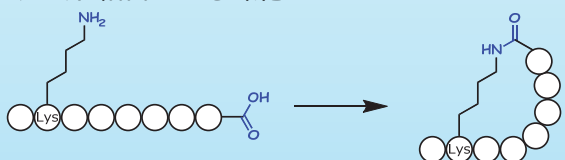
## 環状ペプチドのラインナップ

- Cysのスルフヒドリル基のジスルフィド結合による環化

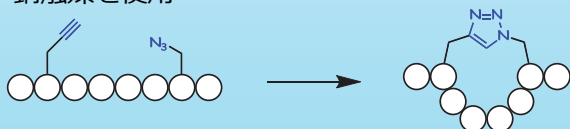


ジスルフィド結合を2組、3組持つペプチド (Insulin、Defensinなど) の合成実績あり

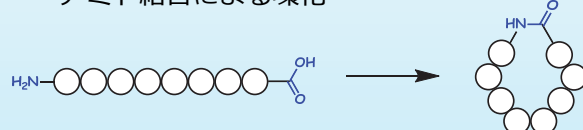
- Lys側鎖アミノ基とC末端カルボキシル基のアミド結合による環化



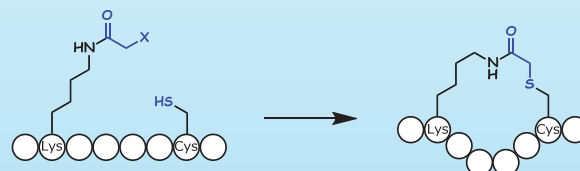
- CuAAC (copper(I)-catalyzed azide alkyne cycloaddition)  
\* 銅触媒を使用



- N末端アミノ基とC末端カルボキシル基のアミド結合による環化



- チオエーテル結合による環化

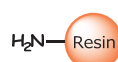
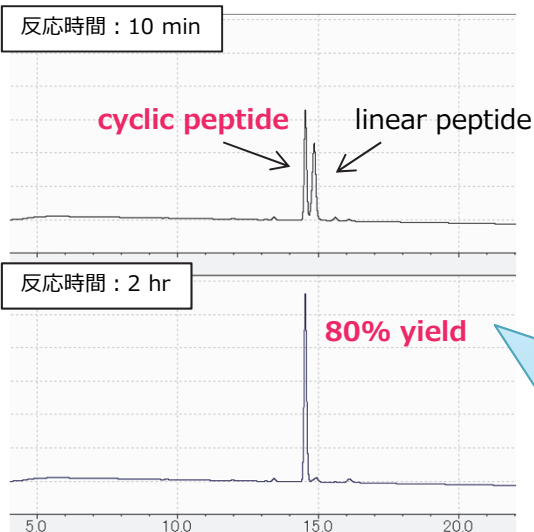


環状ペプチドは以下のようにカスタマイズできる。

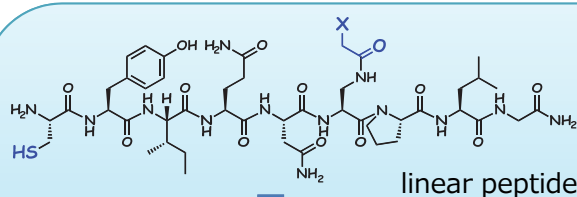
- ・ 任意の位置で環化が可能！
- ・ 環のサイズを変えることが可能！
- ・ 様々な化学修飾が可能！

## 環状チオエーテル結合を持つペプチドの合成

反応時間：10 min



solid phase peptide synthesis



環状チオエーテル結合を持つペプチドを、高純度、高収率で合成可能！

合成実績多数あり！